

2024/5/18 議事概要

日 時	2024年5月18日(土)13:30~16:00		
場 所	珠洲市役所 5階会議室		
参 加 者	役 職	所 属	氏 名
本 部	本部長	珠洲市 市長	泉谷 満寿裕
	副本部長	珠洲市 副市長	金田 直之
	本部員	石川県能登半島地震復旧・復興推進部 現地対策室 (珠洲市派遣)	皆戸 靖彦
委 員	委員長	東京大学農学生命科学研究科生圏システム学 専攻 准教授	橋本 禅
	副委員長	飯田地区地区長会 会長 (連合会会長)	泉谷 信七
	委員	正院地区地区長会 会長 (連合会副会長)	濱木 満喜
	〃	三崎地区地区長会 会長 (連合会副会長)	辻 一
	〃	日置地区地区長会 会長 (連合会監事)	糸矢 敏夫
	〃	宝立地区地区長会 会長	多田 進郎
	〃	上戸地区地区長会 会長	中川 政幸
	〃	若山地区地区長会 会長	北風 八紘
	〃	直地区地区長会 会長	樋爪 一成
	〃	蛸島地区地区長会 会長	梧 光洋
	〃	大谷地区地区長会 会長	丸山 忠次
	〃	社会福祉法人すず椿 理事長	宮野 修
	〃	農業生産法人ベジュール合同会社 代表	足袋拔 豪
	〃	株式会社ノトハハソ 代表取締役	大野 長一郎
	〃	石川県漁業協同組合すず支所 参事	山崎 幸治 (欠席)
	〃	珠洲市特定地域づくり事業協同組合 事務局	馬場 千遥
	〃	株式会社のろし 企画マネージャー	小寺 美和
	事 務 局	〃	特定非営利活動法人ガクソー 代表
〃		株式会社 Drone Partner's 代表取締役	浦 達也
〃		石川県立飯田高等学校生徒 (ゆめかな地震班)	鈴木 杏佳
〃		珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部事務局 事務局長	濱野 良夫
〃		珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部事務局 次長	西 靖典
〃		株式会社計画情報研究所	米田 亮 喜多 峻平 田村 浩次

珠洲市復興計画 第1回策定委員会 協議記録

【議事要旨】

- 復興に向けた理念について、珠洲市がこれまで取り組んできたこと（金沢大学との連携、世界農業遺産、SDGs、奥能登芸術祭など）を活かして取り組んでいくことが共有された。
- 復興に向け、アートや先駆的な技術だけを取り上げるのではなく、農林漁業といった一次産業の再建を図ることが最優先であり、その上でアートや先駆的技術との連携を図っていくという前提のもと復旧・復興に取り組んでいくことが重要であることが確認された。
- 計画策定を目的とするのではなく、復興に向けた具体的な取り組みをどのように進めるかが大切である。現在記載のある各施策に関しては優先順位を決めながら、復興に向けた事業を着実に進めてほしい（施策について、短期・中期・長期の色分けをする）等の意見をいただいた。
- まずは家の再建や水道等のインフラの復旧を早期にしていくことが重要で、人が戻らないことには今後の復興を進めていくことは難しい等の意見をいただいた。人という面では、移住定住・子育て・教育環境面で、珠洲市に魅力を打ち出す施策が重要である等の意見をいただいた。特に、次世代を担う子どもたちがこれからまちを担っていくことになるため、その点を復興計画の中でも位置付けをしてほしい等の意見をいただいた。
- 復興まちづくりについて、能登瓦などの能登らしい風景をどのように残していくか（今回の震災で”瓦”に関する悪いイメージを持った方も少なくない）、蛸島地区では平地に戻りたくない、防潮堤まで必要なのかという意見も出ていること、小規模集落のモデル地区をつくることのできないか、新たな地域コミュニティの再編をしていくべきではないか等の意見をいただいた。
- 情報発信や市民意向の反映について、住民の危機感や今取り組んでいることを丁寧に聞き取り、復興計画に反映したり、住民や市外の人に知ってもらえるようにする必要がある。Youtubeやブログ等の便利なメディアツールもあるため、策定委員会や市民の意見交換の様子をライブ配信したり、主体的に動いている事業者等に参加してもらおう等、より多様なメンバーの意見を反映し、情報発信するような仕組みや工夫が必要である等の意見をいただいた。

1. 委嘱状交付式

(ア) 開会

【濱野事務局長】

それではご案内した時間になりましたので、ただいまから珠洲市復興計画策定委員会の委嘱交付式を始める。皆様本日はお忙しい中ご出席いただき感謝する。令和6年能登半島地震復旧復興本部事務局の濱野です。本日の進行を務める。よろしく願いいたします。

それでは、委嘱状を交付する。市長が皆様の席にお伺いして委嘱状をお渡しする。

(イ) 市長あいさつ

【泉谷市長】

皆様ご出席くださり誠にありがとうございます。この度の地震発災からすでに4か月半ほど経過をしているところだが、1月1日の大地震マグニチュード7.6で、本当に甚大なとてつもない被害が生じている。全壊の住宅が現在1650戸、珠洲市はおよそ5700世帯のため、3割の住宅が全壊である。大規模半壊、中規模半壊、半壊が合わせて現在1836戸である。半壊以上だけでも6割。大規模半壊もほとんどが修繕して住むことは難しく、中規模半壊でも取り壊さざるを得ない方も多いただろう。実に市民の4割が生活の基盤であり、また珠洲を離れている方々にとってまさに故郷の自宅を失われたことになろうかと思う。本当に深刻な状況だ。

また、断水も名古屋市上下水道局をはじめ、全国から応援に来ていただいているが、今現在通水件数が3486戸ということで全体の72.7%である。まだ1305戸が通水できない状況で、通水しても自宅内の配管が壊れている、あるいは浄化槽も壊れているという状況で、水をそのまま使える方も3分の1ほどではないかと思う。

応急仮設住宅は、半壊以上で希望される方全員が入居いただけると考えると1500戸ほど必要になるが、今現在完成しているのが854戸で、ようやく半分を超えてきたという状況。これからますます暑くなってくるので、健康面の維持も含めて、断水の解消、また応急仮設住宅の建設も進めていかなければならない。

また、併せて全半壊家屋の解体撤去は、特に再建意欲のある事業所の解体撤去を早く進めないと再建が遅れ、社員従業員を繋ぎとめることが難しくなる。人口流出に拍車がかかるのを何とか防ぎたい。家屋の再建もできるだけ早く新築をしたい方にとっても、まずは解体を迅速に進めることが重要だと思う。

重ねて申し上げるが、人口流出を防ぐためにも今後解体撤去も並行して進めていかなければならない。生活再建や事業再建に向けて悩んでいる方も多くいるだろう。今なお途方に暮れている方々も多いのではないかと思う。

こうした中、珠洲市復興計画策定委員会、本日が第一回目の開催であり、復興に向けての理念は後ほどご説明があると思うが、珠洲市がこれまで取り組んできた取り組みは決して壊れていない。金沢大学と進めてきた人材育成事業、世界農業遺産里山里海の保全活動、SDGsの推進、合わせてトキの放鳥に向けた取り組み、そしてここ近年、日本中央競馬会の引退競走馬を活かす取り組みも進めてきたところだ。奥能登国際芸術祭については、3回にわたって開催をしてきた。こうした取り組みは復興に向けての財産であり、また光としてアートや先駆的な技術をベースとした新しい地域づくり、新しい生業づくりを目指してまいりたい。

復興計画の基本方針として6つの柱を設けている。先駆的な技術を活用した災害に強い地域づくり、生産性の向上を図る生業の再建、暮らしとコミュニティの再建、安心安全で魅力ある地域づくり、これまでの取り組みを生かした持続可能な地域の構築、そしてDXの推進によるつながる社会の実現、を挙げている。復興計画は、決して計画策定が目的ではなく復興に向けた具体的な計画にしなければならない。特に若い世代が将来この珠洲市の復興にわくわくするような計画にしなければならない。

2024/5/18 議事概要

しかし津波の被害を受けた地域は津波防災対策や区画整理が必要になるといった議論にもなる。そして公共下水道のエリアでありながら、合併浄化槽で復旧していくべきエリアも考えていかなければならない。

応急仮設住宅のその後は災害公営住宅を整備していくことも考えている。実際にコミュニティの維持を考えると、策定委員会の委員である区長会長にも加わっていただき、地域ごとにいろいろと考えていく必要もある。特にコミュニティの維持は、地域ごとに具体的な計画を考えていくことがまさに重要だ。

今日は第1回目ということで、復興計画の方針・計画について、まだ案の段階であるため忌憚のないご意見を述べていただき、この期間を長くするわけにもいかない。いずれにしても第1回目の策定委員会を踏まえ、今後各地域で多くの皆さんと議論を進めたく、何卒よろしくお願ひしたい。

【濱野事務局長】

以上で、珠洲市復興計画策定委員委嘱状交付式を終了する。

2. 策定委員会

(ア) 開会

【濱野事務局長】

引き続き、第1回珠洲市復興計画策定委員会を開催する。

(イ) 委員及び事務局紹介

【濱野事務局長】

それでは次第に基づき、会を進める。次第の3、委員及び事務局紹介は新たに委員を委嘱してから初めての会議のため、お手元の名簿の順に簡単に自己紹介を、まず泉谷委員から順にお願いしたい。

【泉谷委員】

飯田地区の区長会長をしている泉谷と申す。連合会の連合会長を務めさせてもらっている。どうぞよろしくお願ひしたい。

【濱木委員】

正院町の地区会長の濱木と申す。市の連合会の副会長を務める。

【辻委員】

三岬町の辻と申す。寺家に住んでおり、副会長を務める。

2024/5/18 議事概要

【糸矢委員】

日置地区の区長会長の糸矢と申す。狼煙の区長で連合会の監事を務める。

【多田委員】

宝立町区長会の会長の多田と申す。

【中川委員】

上戸地区の区長会長の中川政幸と申す。

【北風委員】

若山地区区長会長の北風と申す。

【樋爪委員】

直地区区長会の樋爪と申す。

【梧委員】

蛸島地区区長会長の梧と申す。

【丸山委員】

大谷地区区長会長の丸山と申す。

【橋本委員】

東京大学大学院の農学生命研究科の橋本禪と申す。前職の京都大学のころから珠洲市でお世話になっており、そのつながりで2015年に珠洲市で初めて幸福度調査をされるときに、調査票の設計や分析のお手伝いさせていただいた。その後も縁があり、国の事業などをお手伝いさせていただいた経緯がある。元々専門は農業土木や農村計画、広くまちづくりや地域振興をやっており、そのようなことでお声掛けいただいたのかなと思っている。お目にかかるのは初めての方も多と思うが、精一杯皆様のお力になりたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

【宮野委員】

障がい者サービス事業者、契約利用者も59名いらっしゃるグループを13名で運営している、社会福祉法人すず椿の宮野と申す。

【足袋抜委員】

農業をやっている足袋抜と申す。

【大野委員】

森づくりとともに炭焼きを生業としている株式会社ノトハハソの大野と申す。

【馬場委員】

珠洲市特定地域づくり事業協同組合という市内の事業者と移住者のマッチングをするような組織の事務局を務めている馬場と申す。

【小寺委員】

道の駅のろしの小寺と申す。

【北澤委員】

NPO 法人ガクソーという教育支援の法人をしている北澤と申す。

【浦委員】

市内でドローン事業をやっている株式会社 Drone Partner's 浦と申す。

【鈴木委員】

飯田高校3年の鈴木杏佳と申す。総合的な学習の時間「ゆめかな」で地震班として活動している。

【濱野事務局長】

なお本日飯田高校の方からゆめかなの顧問である小林先生と地震班坂尻さんと末政さんにもお越しいただいている。

事務局も紹介させていただく。私、事務局長の濱野と申す。

【西次長】

同じく復旧復興本部事務局の次長の西と申す。

【濱野事務局長】

復興本部に参加している副市長と石川県から来ていただいている皆戸さんにも参加いただいている。本市の復興計画策定業務を受託しているコンサルも同席している。

それでは次第の4、委員長及び副委員長についてである。はじめに、正副委員長の決定を行い、その後、会議を行いたい。

委員皆さまの任期は、「珠洲市復興計画策定委員会設置要綱」第3条第2項に、復興計画を策定するまでとなっていることを、はじめにご報告させていただく。次に、設置要綱第4条には、委員会に委員長及び副委員長1名を置き、委員長は市長が指名するもの、副委員長は委員長の指名により決定するとある。

まずは、市長より委員長を指名いただきたい。

2024/5/18 議事概要

(ウ) 委員長・副委員長の指名

市長が委員長として橋本委員を指名し、橋本委員長が泉谷区長会長を副委員長として指名し、正副委員長が決定。

(エ) 議事

【橋本委員長】

ただいま市長のご指名をいただいた橋本です。

委員長ということで、大変な重責ではあるが引き受けさせていただく。珠洲市の復興計画を策定するため、委員皆様方のご意見をいただきながら委員会の運営に努めたい。

それでは、これより会の進行を務める。

はじめに、①珠洲市復興計画基本方針について事務局より説明をお願いする

<事務局説明>

【橋本委員長】

事務局から説明があったが、基本方針について何かご質問があればお答えいただきたい。

【中川委員】

資料1の「策定にあたって」のところで、文章が分かりにくいところがある。1ページ目11行目の「奥能登国際芸術祭は『取り組み』であり」を「奥能登芸術祭などの『取り組み』は」に変えた方が良い。

【泉谷市長】

ご指摘をふまえ検討する。

【糸矢委員】

基本理念について、これまで取り組んできたことを書き並べてあるが、アートや先駆的な技術等の新たなという言葉に具体性がない。もう少し根っこのある理念を書いてほしい。滑っていると感じる。

【橋本委員長】

これから計画の内容を議論していく中で具体化されることもあるので、表現自体も修正されると思う。

【泉谷市長】

この理念については発災直後に多くの建物が壊れてしまって、その状況を心の中で考えたときにいったいこれから何を財産として、光として進めていかなければいけないか、建物は壊れたが取り組みは壊れていない、これを進めていくことが復興に向けての取り組みにつな

がっていくのかなという思いで表現させていただいた。今回断水で多くの皆様にご迷惑をおかけしたことを本当に申し訳なく思っている。そのような中で大変多くの支援をいただいた。トイレカーや自衛隊の入浴支援、手洗いの水を循環させるシステムといったいろいろな先駆的な技術がある事を実感した。こうしたアートや自動運転も含めた先駆的な技術をベースとした新たな地域づくりを、残すべきところは残していくが、多くの方が尊い命を失われて、語弊があるかもしれないが、なんとか災い転じにしなければいけないという自分自身の思いがある。そのようなことで新たな地域づくり、また生業再建支援事業といったことも、国の4分の3の補助といったこともある。そこでは元に戻すといったが復旧していく上でさらに生産性も上げていかなければいけないということで生業を再建するだけではなく、新たな生業づくりが大事ではないかと考えている。

皆様の方でこの基本理念は分かりづらい、あるいは今後具体的な計画を議論する中でもう少ししっかりした理念に変えるべきだという意見があれば変更していきたいと考えている。

【糸矢委員】

アートや先駆的な技術をベースにするとあるが、これまでの珠洲市のように一次産業をベースとし、アートや先駆的な技術と融合していくというなら分かるが、このようなものをベースとしてどうするのか。ベースをどこに置くかを考えて文章を作ってほしい。

【多田委員】

新しい地域というのはゼロからのリセットではなく、市長が言っていたようなこれまで築き上げてきた文化、地方の文化、地域の特性が一つのベースとなるということを理解したうえで、この表現で具体的に進めていくことであればそれで良い。リセットして新しいものを取り入れてそれをベースにするのではなく、今まであった生業を一つのベースとしていろいろな付加価値をつけてやっていく進め方という解釈で良いのかということを確認して進めていければと思う。

【泉谷市長】

これまでの世界農業遺産里山里海の保全・活用といった中に古から続けてきた珠洲の農林水産業が改めて復興の光と捉えた上で、アートや先駆的な技術を取り入れていきたいと考えている。何をベースにするかなどの文言の使い方は改めて議論したいと考えている。

【橋本委員長】

細かい文言に関してはこの後骨子の説明の中で出てくるので、そこで改めてご意見をいただければと思っている。それでは事務局の方から珠洲市復興計画骨子について説明をお願いします。

< 珠洲市復興計画骨子 事務局説明 >

【大野委員】

資料 15 ページの農林水産業について、林業という文字が表に見えてこない。今回の地震で山崩れも大きく、林業を見直すということでは境界線という従来からの課題もある。その辺をDXやドローンに投資をして、この際一気に境界線の問題の解決となるのか。復旧に関しても森林組合や林業事務所が倒木の処理でとても懸命にやられている。それなのに計画の中で林業の比重が少ないように感じた。ただこれは長期的な復興の分野になるためそういう意味では林業の従事者が少ないことや行政に林業を知っている人がいない、部署がないという課題に対して人材育成のことを含めて比重を上げていただけたらというのが一点目。

商工会議所にも属しているが、商業関連の事務所の実態調査など商工会との連携も必要だと考えている。その点はどのような位置づけで復興計画になっているのかという質問がある。

【橋本委員長】

林業について記載を取ることと商工会議所との連携はどうなっているのかということに対して、事務局はいかがか。

【濱野事務局長】

生業支援金等の関係で珠洲市役所の産業振興課と連携してやっている部分はある。見た目には足りないということであれば担当に伝えたいと考えている。連携を図ってやっている。

【大野委員】

どちらも人手不足で大変だと思うため、外のリソースを使って実態調査を行うのがまず必要かなと思う。そして事業者も実態を見てここは自分も頑張らなきゃいけない等の色々な判断をされると思う。市長の話にもあったが意気消沈されている事業者もかなりいると噂で聞いているので、まずリアルを知りたい。役割分担でやっていただきたいと思う。

【泉谷市長】

商工会議所の現状分析や情報共有を図ることはおっしゃるとおり大事である。商工会議所の役員と常議員の皆さんとこの復興計画についての議論もおっしゃる通り必要だと思う。そこをスケジュールに組み込んで進めていけたらと思う。

【辻委員】

生業再建やアートも大事だが、何よりも住宅が大事だ。一生懸命仮設住宅を準備しているが、仮設から出て客商売ができるか、農機具を入れる場所あるか、これらを整理してからアートではないのか。百姓しようか、漁業関係者の船がつながる場所がどうなっているか、まず自分の立つ位置が決まらないと何もできない。お金を持っていない人がいかに再建できるか、そこに足をつけられるか、場所を早く提供してほしい。そこから町になって、市になるのではないのか。土地がある人は良いが、住む家がないと山にも畑にも田んぼにも行けない。

【橋本委員長】

とても難しい検討をお願いしていると思っている。インフラ復旧や住宅再建、仮設住宅の建設を並行して進める中で、復興計画早く作らなければならない、あるいは都市が進む方向をビジョンとして示さなければならない中で、復興計画策定の委員会があるという難しい状況である。おそらく日に日に例えば上水道の復旧率が変わったり家に水が届いたり、大規模な損壊を受けた住宅の解体が進んで新しい風景に変わっていくとか、ちょっとずつ皆さんの気持ちも変わると思う。なかなか難しいところをお願いしているのは承知している。ぜひともご心配なども含めて様々なことをオープンにして議論したい。その他意見はないか。

【丸山委員】

これから農業等自分で何かをできる人達の住処も大事だが、高齢化が進んでいる地域でもあり、仕事ができなくても住みたい方に対して、どのような形で場所を提供できるのか。例えば福祉施設を作っていただいて、都会より能登にずっと住みたいという方に対しての施設、食事はできるけど作ることはできない方の医療も含めて面倒を見ていただけるような施設を作っていくことは考えているのか。もしないとするならば高齢化社会に向けた対策を打ち、死ぬまで生活したいという人に対する場所があればまた戻って来ることができるのではないか。今都会に二次避難している方で帰りたいけど仮設住宅では生活できない方に対して、仮設住宅や公営住宅に入って福祉的なサービスが受けられるようなコミュニティができれば良い。そのような場所とサービスを考えていければまた戻ってこられるという風に考えている。

【橋本委員長】

基本方針では、「暮らしとコミュニティの再建」と「安全・安心で魅力あるコミュニティの再建」に関連するところかと思う。事務局からはいかが。

【濱野事務局長】

20 ページの政策 3 の災害公営住宅の整備や住宅再建の支援、27 ページの医療福祉の支援体制の再建・強化の両方に関係するところで考えていきたい。

【橋本委員長】

箇条書きだけではなくて、おっしゃったことを汲むような計画の検討を重ねていきたい。

【糸矢委員】

認識の違いなのか分からないが、18 ページの DX の活用等による質の高い教育の実現とあるが、DX を活用することが質の高い教育なのか。移住定住のところに里山里海を活かした体験や探求的な学びの推進と書いてあるが、DX を活用するのは良いが、里山里海を活かした教育がある意味質の高い教育である。22 ページには公営塾のことが書いてある。レベルが低い。認識がおかしい。地域コミュニティという話の中で公民館を拠点とする地域力の強化と

あるが、今の公民館組織がどうなっているかを考えたら、新たな地域コミュニティ組織を再編しなければならないはずである。いろいろなところに「新たな」と書いてあるが、まだ公民館にしがみついている。要するに行政の中の縦割りがそのまま現れている。その認識を変えてほしい。

【橋本委員長】

このこともご検討いただきたい。

今回は第一回ということで、広く思ったことを言っていただき、予定している地区説明会の中で別の考えも出てくるだろうから本当に幅広く感じられたことを発言していただきたい。

【多田委員】

生業の再建のところ、DX等の技術を取り入れるとあるが、今自分の在所を見ると用水も来ていない田んぼもある。去年まではきれいになっていたが、大規模でやっていた人も機械が壊れてやれないと言い珠洲から離れていく。だから新しい流れを創出していくのだが、その前に基盤となる田んぼをどのように整備していくかをある程度計画に出してかないと、残る人も残っていかない。うちのところは基盤を整備して去年までは本当にきれいだったが、半分くらい荒地地になりそうだ。だからあの辺りをどんなふうに整備していくか、入れても定着度が変わってくるだろうし、その辺の文章も表面に入れていくことが大事である。

住宅の切れ目ない取り組みというが、今現在そこで公費解体を控えている話も出てきているが、キッチントイレだけ水道をくっつければ、この離れに住むことができる。公費解体を前提に更地にしてそこに建てるのも一つだが、残るためのいろんな選択肢を市民は考えているのでそこに対しての相談窓口、施策を考えていって、次の新たな生業等の理念に入っていくことが大事。その前段として書いておいてもらえたら、少しは安心できる。

一方で分野が広いので、地区説明会を開き、意見を取り入れながら次の会ではこういう意見が出たと取りまとめていく形で進めないとなかなか計画もできない。

【橋本委員長】

国の支援はこれから新しく出てくると思うが今の時点では書けなくて、出てきてから事務局で方針に該当するものを加えていく部分もある。おっしゃられたとおりに地区説明会でご意見いただいたときに新しく追加する項目や配慮する記載も出てくるだろう。

【泉谷市長】

部分解体で生活基盤を整えていくことは、だいぶ融通が利くようになっているか。

【金田副市長】

一つの家はこの部屋だけ残してほしいなどは難しいが、棟が離れているように分別しやすい解体はできる。順次地区説明会で説明していくと思う。

【多田委員】

この説明を理解できないまま、部分解体できないなら出て行ってしまう人もいる。どこかで丁寧な説明があると思う。一人ひとり建物の建ち方が複雑なので。

【金田副市長】

解体に関しては去年の5月5日以降もあったが、その時の丁寧さと今の環境省含めた対応が変わってきているので、できる部分は増えてきたと思っている。いろいろな説明会でどんどんご質問していただきたい。

【泉谷市長】

辻委員がおっしゃった、まずは家、農業機械を入れる所が壊れてしまったと、足元を固めてからでないといけない。

【辻委員】

我々の地区は津波が来た。波返しをどうするのか、そもそも家建てられるのかということが一番気になる場所である。

【泉谷市長】

津波防災については、防潮堤まで必要なのか、かさ上げをするのか、かさ上げをすると地盤が緩くなるということもある。そのままでもいいのか、いざというときに逃げれば良いのかという話もある。今後の津波はどんな頻度で来るのか、もっと大きな地震が来たらどうなるのかということとは誰にもわからない。

【辻委員】

そのような青写真が出てきたら、ここでもう一回頑張ろう、それを今どうすればよいかみんな模索している。このままじゃここに建てられないし何年後にまた津波が来るかもわからない。道をこうするといった案が欲しいと言っている。地区説明会で出てくるだろう。

【泉谷市長】

そこについては、宝立や寺家地区はどうやって進めていくかというのは詰めていきたい。農業は、この春の作付けが、ある農業法人は1~2%しかない。パイプラインも全部やられていて、用排水路もやられているような状況で米作りできないという話もあったが、なんとか6割ほどできるように復旧を進めてきた。

目指すところは26年のトキの放鳥というのが一つあり、復興に向けた取り組みとしてよいのではないかと。

今まで通りの復旧だけでも先細りしないかという思いがある。復旧するのであれば、この際いろいろなところを取り入れてやっていかないと、次の世代が飯を食っていけないようでは復興にはならない。そこを文言のベースに付け加えるかといったことはあるが、この議論は委員会でもやっていくべきではないかと。

【橋本委員長】

若手の方々からも意見をいただきたい。

【大野委員】

家の問題は切実だと思っている。無事だった人間でコメントしづらいが、委員としての意見として、まず住むところを早く作ってほしい。建っていた家に戻るのには時間がかかる。待ってられない。地主には協力してもらわないといけないが、壊滅的なところに関して小規模集落ぐらいの木造戸建てのまちを作ることができないか。そこで新しい技術を活用した街、災害に強いモデル的な街を作って、まず安心して暮らしてもらい、生活基盤を整えて、そのあとに再建について考えていく時間を作れないのかなと思う。住民の意見を聞いて、いくつもパターンを提案し続けていくのが良いのではないかな。

【梧委員】

東北の時には高台に家を建てた。

今回蛸島は運よく津波が手前までしか上がらなかった。昔は蛸島地区も津波が上がっており、その頃、蛸島の住人は高台に住んでいて、津波の後しばらくして高台の下に生活している。煙が上がっているのを見てから少しずつ下に降りていった。以前、文献大会で危機管理室の方から手がかりになるものないかと聞かれたが、悲しいほどに文献がない。

私が避難所にいたときに耳にしたのは、蛸島のような平地に行きたくない。山に上がる3本の道は亀裂がはいっている。水がないため田んぼができない。早くしないと来年もできない状況である。かさ上げ、防潮堤がいいのか、地盤改良をしていくのがいいのか、ただ池があるからどうなのか、高台移転も考えてほしい。

黒瓦の文言があるが、みんな瓦が嫌だと言っている。流行りのハウスメーカーがいい。黒瓦はきれいだが、石川県には瓦工場が無くなった。三州もなくなった。少しずつ軽くなっているが、見た目と実用性安全性、技術的に構造的に計算的に調べるのも一つの手かなと思う。

田んぼの畑への転換について農機具の補助と書いてあるが、池からのとり水が調べられているか、ここも見ていただけたら。

まずは住宅であり、仮設はいつまでいれるかわからない。単純な作業で電気がショートしたり、仮設のクオリティでは3、4年も住めない。

【泉谷市長】

応急仮設住宅は原則2年だが、過去の大災害の例を見ても入居年数は延長しているので柔軟に対応したい。

瓦が悪者になっている。瓦が重いので1階部分が押しつぶされたと思っている方も多くいらっしゃるが新しい家は瓦でも大丈夫であった。耐震基準等の建築基準の問題であると思うし、瓦の町並みを残したい人も多くいる。そのような能登瓦が悪者扱いされていることが堪えられないという方もいる。今後の災害公営住宅の在り方や住宅再建について、今回の大地

震で街並みも風景も一変してしまったが、珠洲らしさを残せるかということもあるため、科学的に黒瓦が悪者ではないとお出しする必要がある。

【辻委員】

仮設住宅が小中学校のグラウンドに建っている。年数が伸びれば伸びるほど、運動場が使えなくなる。一校に十分な生徒数はいないけれど、各地区の現状残っている学校はどうなってしまうのかと心配している。

【北澤委員】

子どもたちと話していてもそのような声は多い。しょうがないと思うが、声が多いので今の子たちをどうしていくかをやりながら考えていかなければいけない。理念の話に戻るが、何のために街を作り、生業をしていくかを考えたときに、やっぱり子供のため、次世代のためだと思う。ビジョンの作り方として、特に大野さんの林業は成果が出るのが何十年後の話であるとか、理想的な街ができることやビジョン通りの街ができるか、自分が生きている間に見られるかわからない。一方で毎日復興に向けて活動をやり続けていくことなんだろうと思っている。理念の中に子どもの教育や子育てが無いことについて、一つ一つの取り組みの中ではあると思うが、一つ上のレベルでやってほしい。

里山里海やSDGsもそうだが、今の世代のためのことは次の世代のためでもある。糸矢委員もおっしゃったが、そのようなスタンスで教育DXではなく移住定住につながる里山里海の保全が大切なのではないか。私は珠洲に引っ越してきて7年経ち、子どもはこちらで生まれ故郷が珠洲になるのがうらやましいと思っているが、守りたいと思う中で、何で珠洲に住んでいるのかというと、良い教育があるからでもなく、行政が良い政策をしているからではなく、みんなの暮らしが良く、自然が良いからである。学校が特別なことをしているかというとなんかそうではない。では何が良いかと言うと、やはり自然があり里山里海と人との関係性がありその中で子どもが育っていく。辻委員がおっしゃった青写真を作っていく場でもあると思うが、子どもへの対応も重要だ。それに関して、この場の鈴木さんはゆめかなの地震班としてずっと地震について考えていて、学者ともコミュニケーションをとっていて、今日もほとんどの生徒からこの場に向けたアンケートを取ってきているので、主立った意見があればぜひお願いしたい。

【橋本委員長】

何のための復興なのかを基本理念のところにきっちりと打ち出してほしいと思う。

【鈴木委員】

飯田高校生に市や町の対応のアンケートを取ったが、やっぱり遅いという意見が多い。水道等のインフラの復旧が遅い人ほどそう感じてしまう。

学校のところに関して、資料の中に高校が含まれていない。県立だから市としては触れられないと思ってしまう。

学校も体育館が4分の1しか使えない状況で、修繕してほしいと思った。

【橋本委員長】

どういう事業のメニューを使って広いスピードでやっているというのもあるが、先ほどの用地不足のように運動場をどうしても仮設住宅に使わざるをえないことは時間の問題でもあり、土地の確保の問題とも関わってくるため、継続的に検討いただきたい。

自然災害の復興で全般的に共通しているところだが、復興の検討をしなければならないことと、ステークホルダーの住民や関係者自身が被災していること、県や国が同時に検討している新しいものを取り入れていかなければいけないことが議論の難しいところである。

今までの委員の発言等を受けて、全体を通してご意見いただきたい。

【糸矢委員】

全体を通して危機感が足りない。もう少し大変なんだという市民の声が反映されないと、何となく淡々とやっているようで、意識が足りないと思う。いろいろな復興政策をやっている中で今人がいない。家作ろうと思っても大工さんが動けない。病院も入院できない。介護施設にも入れない。そのような状況だから人が帰ってこない。だからどうやってスピード感を持ってやっていくかを、全体の中で触れても良いと思う。

最後に、やはり人である。どうやって人を入れていくか、いろいろな支援をしてもらうことも良いが、移住や定住、子どもを増やしていくことを考えないといけない。引手数多だが、採用した人の住居がないということ。ここをきちっとやっていかないと、ここに残る人も入ってくる人も復興が前へ進まない。そのような基本的なところをベースにしてトータルを考えていければよいと考えている。

【大野委員】

短期中期長期で色分けをしてほしい。珠洲市議会の関わりがどうなっているのか、財源はどうなっているかを知りたい。

【濱野事務局長】

議会に関しては今後進捗状況の説明をやっていく予定であり、議会の方からもご提案をいただきたい。財源に関しては絶対大丈夫とは言えないが、これだけ考えて予算がないのでできないと言ってしまうと、それこそ次世代に残せない可能性もある。今投資すべきかを含めて検討していくために予算的な話はいったん置いておき、案を出していただきたい。

【泉谷市長】

予算の面では復興基金が創設されている。その基金を活用して進めていければと思う。今国の補助制度の中で、さらに補助率をかき上げしてほしいとか、補助にならないところは財政措置をしてほしいとか、そのような働きかけをしていって、絵に描いた餅にならないように計画に挙げたものは実施できるように財源のところを含めて取り組みたいと考えている。

【北澤委員】

心のケアの文脈もしっかり考えたい。東日本の復興で活躍されていた方に話を聞いたところ、本当に最前線で活躍していた20~30代の方々がいなくなっているとおっしゃっていたことが結構印象的だった。危機感は大変だが、超激務みたいにならないようなケアを、市民一人一人に対して、行政も含めて通底してあった方がよい。

このような会があったというのがオープンにされない。そのような声に対してケアをしていきたいので、できるだけ範囲でプライバシーに配慮して、ブログ等で報告をしても良いか。

【中川委員】

この計画を市民に見せても良いのか。案だから難しいか。

【西次長】

案なので変わる可能性があるが、見せても良い。

【泉谷市長】

皆さんがよろしければ、YouTubeで配信しても良い。こういう議論を始めることすら遅いと思う人がいるのではないか。

【北澤委員】

遅いという人もいるし早いという人もいる。私の中でも両方あって矛盾している。だがみんな頑張っていくしかない。

【泉谷市長】

冒頭でも申し上げたが、計画策定が目的ではなく、危機感という話もあったが、本当に存亡の危機だ。珠洲市がここを乗り越えるために、多くの皆さんの意見を反映して、いろいろな知恵を取り入れてやるしかない。計画策定が目的ではなく、いかに本当に復興していくかであるため、できるだけ多くの意見をいただきたい。「今こんな議論がされていて、だから自分はこう思う」などいろいろな意見が出てこなきゃいけないし、それを反映すべきだと思っている。事務局でできるだけ公開することで、議事録を作って皆さんに照会をしたうえでホームページに載せるなり動画にするなり、議事録ならご了解いただいたうえでなら公開できる。

【丸山委員】

復旧と復興の住み分けがわからないが大事なのは復旧である。優先させるべきものもあると思うが、復興につながるレベルアップした復旧があり、そこにリンクさせて踏み込んでいくことが必要である。復旧計画がまだよくわからないが、一番はインフラだが、それ以外の田んぼや漁業といったようなところをもとに戻すが復旧である。その辺をどうリンクして、優先順位をどうつけて、どういうスケジュールでやっていくのかっていうことをきちんとし

ていかないと、あれもこれもと盛りたくさんのことをやろうとすると、人もいない金もないとなるため、やれるところからやっていくのではなく、やらなければならないところからやっていくべき。それをどう考えていくかを議論していきたい。復興計画の計画期間が7年間ある中で後回しにすることもあるが、一斉にやれないのであれば優先順位スケジュールや、大事なところからすぐ金を出して人を集めてやってほしい。他のところからの事業者も寝る場所と食べる場所がないので行きたくないというゲストが多いと聞いている。そのような人の環境を作ることも必要だと思う。もちろん住民の住む場所を確保することが最優先であるが、それをする業者とお金を傾けてやっていきながら、復興としてレベルアップした形のを盛り込んでほしい。

【橋本委員長】

宿泊施設は難しいところで、私は東日本大震災の被災地の調査を何年かやっていたが、ある時突然コンテナホテルが交通の便の良いところに用地確保してでき、復旧復興の事業者の拠点になった。私の期待であるが、ある程度土木事業が大規模で動き始めると、そのようなことも生まれ、来訪者の方も増えて、今度は食事、お酒という外部の交流人口といった一時的に利用される方の数が増えることで、また街の賑わいが今までと違う形かもしれないが上がることもあるだろう。それが刻一刻と変わっていくのがまた難しいところだろう。

【泉谷市長】

これについては今採用される方向けの寝泊まりする場所を、仮設で商工会議所のあたりや、あるいはビーチホテルの前の巨大遊具の裏で、今建設を急ピッチで進めている。先ほどあった学校のグラウンドに応急仮設住宅が立ち並び児童生徒が使えないことに対しては、仮設のグラウンドを検討しているところである。耕作放棄地を整備して進める予定である。

【辻委員】

金沢から家の片付けに来ようにも泊まる場所がない。集会所を閉めたいけど閉められないことについてはいかがか。

【泉谷市長】

GWから片付けに来た方の泊まる場所は、わくわく広場のあたりでできることはやっているが、できるだけ自宅の近くが良いだろうし、そのあたりは区長が先導して集会場等でなんとかやってくれたが、限界がある。

【辻委員】

遊びに行けない。飲食店等の場所が減ってきており若い人たちやお酒が好きな人たちのための場所があればよい。

2024/5/18 議事概要

【金田副市長】

飲食店については仮設店舗の計画が進んでいる。弁当やイトインの事業者、4社に話している。8月お盆に営業できるように進めている。

【中川委員】

総合戦略に位置付けられている政策番号の対応関係が分からない。

【濱野事務局長】

珠洲市の最上位計画のまちづくり総合指針の番号を当てはめたものである。

【泉谷市長】

総合計画も切り替えの時期であり、計画のための計画にならないよう総合計画との流れを合わせていかなければいけない。

【橋本委員長】

今まで総合計画で位置づけられていたものをこれからも重点的に強化して続けていくということを長期的に考えていく必要がある。

【宮野委員】

障がい者のホームに挨拶しに行くが、一時避難で外の避難所になじめず、他の同居の方に迷惑をかけてしまうという声があった。薬の管理もできないといった声もあり、私らの仕事を通してどんな対応をすればよいのかということを感じている。

【馬場委員】

珠洲に来て5年目で、移住者の相談にのる仕事をしていたので、移住者としての立場として言うが、移住者は今までの生活を捨ててまで珠洲に来たという強い想いを持っている。本当に北澤さんからもお話しあったが、かなり生活を満喫して暮らしている人たちが多かったが、今回の地震で家が壊れたり、潰れたりという時に、どうしても借りている家や持ち家でないために立場が低く、住む場所が無くなって出ていかざるを得ない仲間が多くいた。それに対して何もできないことが悔しかったが、また珠洲に戻ってきてほしいし、戦力になるので、新しい移住者を含めて移住者の対応をしてほしい。

たくさん項目があって、市長からの頼もしい発言もあってよいが、この施策だれがやるのか、そこで新しく人を呼び込むことが大事になる。そういった点で移住施策も考えてほしい。

【小寺委員】

4月4日から道の駅狼煙を再開したが、GW後から人の入りが少なくなったと感じた中で、少しずつできることからやっている。何を基本ベースで復旧していくか、個人的には農林業だと思っている。私たちは生業としては最後に売る立場にあって、大浜大豆の地豆腐を作っ

ていても、結局大豆を農家の二三味義春が作っていて、土地を直しながらやっと作付けにいかうとしているが面積が少ない。その状態でありながらも、今回はたまたま珠洲市内の良い場所に土地を確保していたため在庫があった。一方でにがりはまだもう2缶しかない。これで1年やっていけるのか。最終的な生業に行くには一本の串で刺されていて、農業も復活しなければならない、にがりも必要、いろいろなところが復旧しながらで私たちがいる。どこか1つ復旧しても足りなくて、それぞれが上がっていかないとベースも上がっていかないと考えている。

今日話を聞いていても、復興がまだまだというところと、復旧に力を入れているところと上手なリンクがないと大変なことになる。里山里海も皆さんの草刈りがあるからきれいなまを維持できるため、集落の草刈りも今集落で相当話し合っている。人がいない間草刈りなどはやめよう等のような話が今後出てくる。それをやらないともうやらなくなる。何が復旧できていないかをヒアリングしてほしい。社長は種豆をなくすことができないからやっている。いろいろな復旧のためのリスクが多くあり、それでも小さいところでも何か復旧できないかとヒアリングすべきだと思う。復旧しようとしているところと復興を一緒にやらないといけないと思う。私たちだけが生業として珠洲市の商品を扱っているが、入ってこないから売れない、自分たちだけが大豆だけの製品でやれと言っても限界がある。作るにも限界はある。

【橋本委員】

なかなか復興計画の個別の施策リストだけでは拾えないような、つながりの重要性をご指摘いただいた。

【小寺委員】

何を優先するのかを決めないと絶対だれもやらなくなるという小さな問題がたくさんある。道が上がっていくと、カボチャやブロッコリーができていく。規模は小さなところであるため、山や畑などを復旧している。そのような事業者がたくさんいるが、なかなか追いつかない。

【浦委員】

事業の方もやっぱり人が大事である。人が出て行って困ったこと、事業が再開できずに仕事を閉めざるをえない状況になっているため、まずは人が帰ってくるのを早くしてほしい。

ドローン事業として、山道が寸断されて荷物が運べないところで40kg運べるドローンで下見をしていて、復興に力を発揮できる場所がある。そのような形で、今珠洲にはいないが、おかげでいろいろなネットワークができ、復興にも関わらせていただき、新しいものを能登に持ってきて一つのエッセンスになれば良いと思う。

【鈴木委員】

何人かおっしゃられていたように優先順位をまず明確にすることがとても大切だと思う。学生の立場からしたら、本当に学校や教育施設の復旧を徐々にしてほしいと思っている。飯

田高校の坂道は砂利だらけで毎日誰かしら転んでいるので直してほしい。学生において大事なものは、勉強もそうだが部活動だ。毎日傾いた体育館で練習していてかわいそうだと思う。私たちの下の子たちのために学校や教育施設を直してほしい。大人からしたら産業も大事だけど、子どもからしたら学校のような身近な場所が早く復旧するのが大事だと思う。

【足袋抜委員】

今日はいろいろな話が聞けて勉強になり、状況がすごくわかった。私が気になっているのは復旧が進まないボトルネックがどこにあるのかということ。住処や滞在する場所という話を出したが、何となく感じているのは、今回資料もそうだが骨子を数少ない人たち、要するに職員さんで作っている。行政に負荷がかかっている状況で、人が足りないということである。そこを改善していかないと大変なのではないか。復興を政策へ落とし込むには現場が機能しないといけない。復旧と復興をリンクさせるという話もあったが、どうしても行政に依存してしまうというのが現状。行政、市長の政策が良くない、マネジメントが良くないということではなく、根本的に人が足りないのでスピードが上がらないということがある。自分の能力ではなく、ものすごい危機感を持つことが必要で、スケジュールはこれで間に合うのか、議論が尽くされるのか、私は足りないと思っている。もちろん皆さん忙しくて大変な状況であることは分かるが、もう少し今日みたいな議論を活発化、頻度を上げることで解決策を見つける必要がある。すごく大変な状況を変えるには、まず何をしたらよいかというところを優先的に見つける必要がある。

【橋本委員長】

中越地震のときに、市の職員が激務で帰宅途中に車で事故を起こしたことがあった。復興を早く進めなくてはいけないことはもちろんだが、どういったところで負担を軽減できるかを考えないと復興自体が進まない状況になる。県では何年かおきで配置換えができるが、市は最前線で常に現場に向き合っている。その負荷をどのように和らげるか、息抜きの方法も考えていく。

【北風委員】

農林水産業の話だが、今年は田んぼに植えても果たして水が行くか心配なほど水不足になる。植えるまでは何とかなるが、植えたあとが大変だろう。農業スタッフと相談してみると品種を変える話もしておりそのようなことを考えてくれる人がいれば良い。とにかく今年は水の管理が大変である。今はポンプアップしているが、用水の量も3分の1しかない。パイプで上げて途中で水が流れ、いくまでにまた3分の1ぐらい減っている。中継地を作った話もしているが、他のところを聞いていてもそのような場所が多い。行き当たりばったりで仕事をしているようなもので、早く復旧してほしい。うちは用水がやられたのは山の土砂崩れで、今一生懸命よけて用水を復旧しようとしている。山のトンネルが崩れてなければよい。いつ直るのかわからないとの返事でみんなイラついている。ここだというのが分かればやっている側からの返事のしようもある。仮設住宅も全然足りない等とされている中で、

いつごろになったらできるかのような情報が早くほしい。仮設住宅がないと帰ってきたい人も帰ってくることができないため、大至急仮設住宅の整備だけをお願いしたい。

【樋爪委員】

直地区としてもどうすればよいか。恥ずかしながら区長で世話をしていたが避難所を途中で逃げた身だが、地区のいろいろな職種の悩みを持った方の意見や状況を積極的に聞いてこなかった。委員として選ばれ与えられたわけであり、会議に臨む前にいろいろな情報も入れて参加したいと思った。避難所に携わり言えることは、話の中で住まい、学校、運動ができない、体育館も避難所になっている、現実問題として避難所にいる方を解放できるかが大事だと思っている。避難所の色々なケアや医務的なことをボランティアの方がやってきているが、市の方から避難している方一人一人にどういう状況になったら避難所から出ることができ、そのためにはこうするという避難所から出て落ち着いて暮らせるような方向性を示してほしい。

【橋本委員長】

地区説明会でまた皆さんの意見を丁寧にお聞きする機会があると思うが、ぜひそういうところでも出していただきたい。

【濱木委員】

学校から公民館の方に避難場所を移設して、避難所には全てあるからなかなか出ていかない。昼は仕事にいったり高齢者は自分の畑にいったりしているが、いつまで続くかもわからず、皆さん辛いと言っている。皆さんに声掛けしている状況である。

【泉谷副委員長】

私は飯田地区では1月1日に家が倒れて避難所に行けない状況だった。街の中で何人かあっち行ったりこっち行ったりして何とか避難所に入った。飯田小学校は指定避難所になっており、200人分の物資があったが、851名避難していて座ることもできずに立っていた。体育館が土砂崩れの危険があり、教室に移動した。教室は町ごとで入ったため、それが功をなし、即興のコミュニティができた。そこでは仮設住宅が飯田小学校のグラウンドに建設されると聞き、そこぐらいいは残してほしいと反対運動がPTAで起こった。町内会とPTAの会議に出たが、ある程度食い下がると言ってグラウンドの3分の1で留まるような方向で建設が進んだ。今月の20日から工事が進むということで、そちらに入ってもらえるのではないかと考えている。私も1月1日から3か月間避難所にいたが、4月1日に新しい本部長を決めて組織交代をして運営をしている。入居者が独立するように4つ使っていた教室も1つにまとめるようにしているところであるため、仮設も飯田小学校の分では足りないため、そのあとの仮設建設も進めていただきたい。インフラの整備もどんどん進めて、それに合わせて復興計画をより具体的に進めていただきたい。

【橋本委員長】

ご意見に感謝するこれで少なくとも全員ご発言いただけたと思う。
続いて事務局の方から今後のスケジュールについて説明願いたい。

【西次長】

資料3の今後のスケジュールをご覧いただきたい。本骨子案をもとに、今後地区説明会、市民アンケートなどを行い、復興計画の案として最終的に取りまとめ、パブリックコメントをいただきながら年内には復興計画を策定したい。本日皆様から頂いたご意見やご提案を反映して第一回目の地区住民説明会を開催する予定である。本日第1回目の策定委員会を開催した。翌月に地区説明会、さらに翌月に策定委員会を開催するといったように往復しながらブラッシュアップして行って、内容を変えていきたい。この間に小中高生に対してヒアリングやワークショップを行いたい。さらに各団体へのヒアリングや全世帯への市民アンケートを送付してご意見を伺いたいと考えている。結果に関してはその都度策定委員会で共有したい。また第2回の策定委員会は7月27日土曜日同時刻3階会議室で予定しており、スケジュール確保お願いしたい。

【橋本委員長】

全体のスケジュールに関してご意見はあるか。私の理解ではこのスケジュールで固まっているわけではなくて、全体の進捗によって少しずれたりすることもあるということ。ただ目安をもって進めていかないといけないと思うし、早期の計画策定に必要である。質問があれば事務局にあげていただきたい。以上で次第に基づく議事が終了した。本日いただいたご意見等を参考に、珠洲市復興計画の策定作業を進めてほしい。長時間にわたり、感謝申し上げる。

以上